全農 JA全農いばらき

営農 News

令和６年１月12日　第3110号

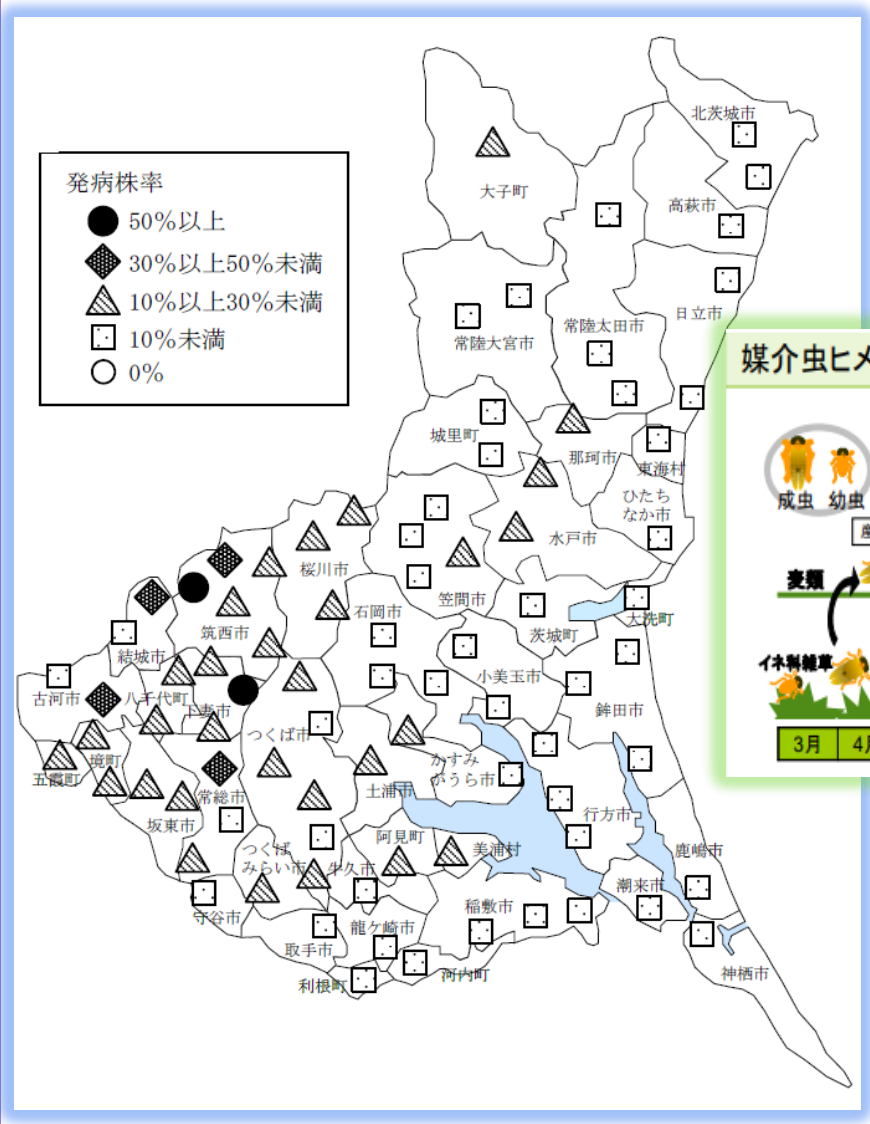
イネ縞葉枯病対策：
ヒメトビウンカの越冬量を減らしましょう！

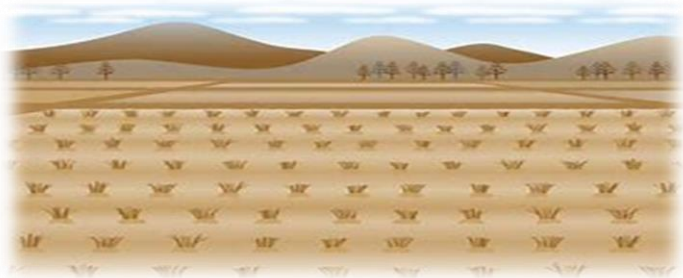
令和６年産のイネ縞葉枯病の発生を少なくするためには、ウイルスを保毒したヒメトビウンカの越冬量を減らすことが重要です。

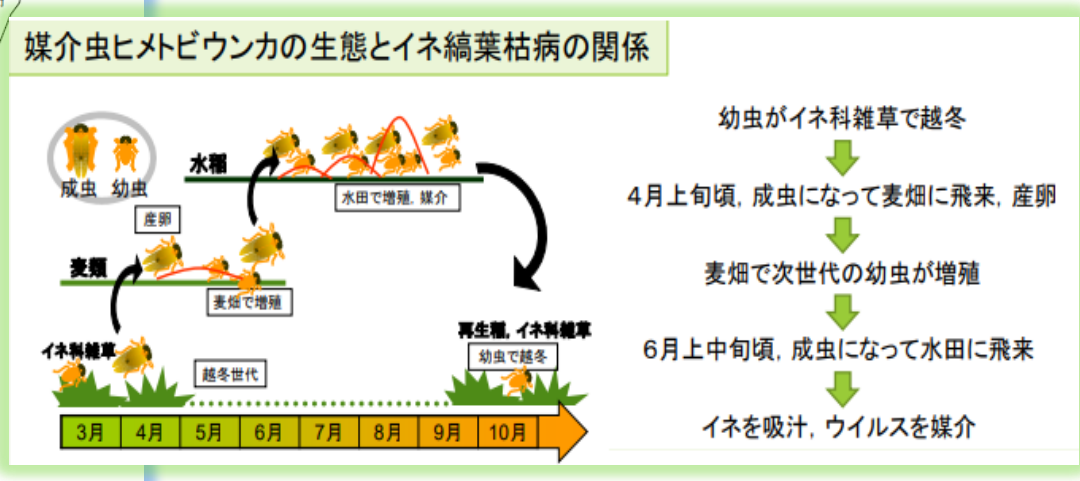
茨城県病害虫防除所で令和５年９～１０月に水田を調査した結果、全市町村でひこばえにおけるイネ縞葉枯病の発生を確認しています（図）。県西地域の平均発病株率は１３．５％と県内で最も高くなりました。

気象庁の３か月予報（１～3 月）では、平均気温は、高い確率６０％と予想され、ヒメトビウンカの羽化時期や越冬場所からの移動時期が早くなることが予想されます。また、暖冬により越冬量が多くなる可能性も考えられます。

水田内の稲株や畦畔、土手等のイネ科雑草は、ヒメトビウンカの越冬場所となります。畦畔、土手等の除草を行うとともに、水稲収穫後にまだ耕起していない水田がある場合には、速やかにすきこみを行い、ヒメトビウンカの越冬量を減らしましょう。







イネ縞葉枯病防除マニュアル（茨城県版）より

図　ひこばえ（再生稲）におけるイネ縞葉枯病の発病株率（各地点の最高値）

注 1）調査した 5 圃場／地点のうち、最も高かった圃場のデータ

注 2）1 圃場あたり 300 株の見取り調査

（茨城県病害虫防除所　病害虫発生予報第 11 号　防除所レポートより）

■ 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

■ 営農 News はＪＡ全農いばらきホームページでもご覧になれます。

農機営農支援部　営農支援課　　電話：029-291-1012　FAX：029-291-1040